

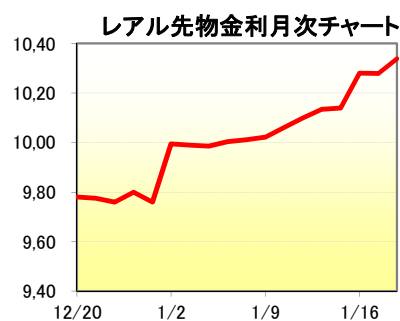
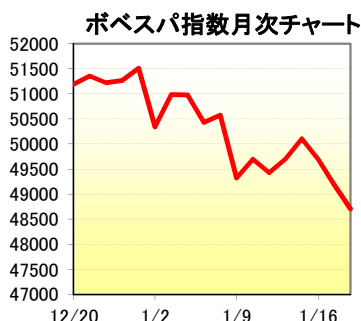
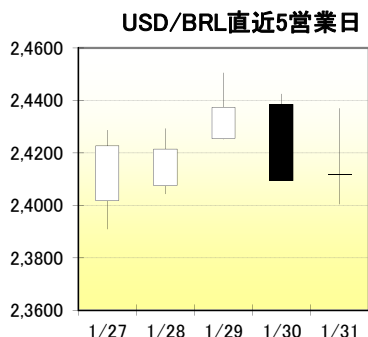
## Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 1. マーケット・レート

			1月27日	1月28日	1月29日	1月30日	1月31日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,4220	2,4270	2,4350	2,4150	2,4170	+0,0020
	USD/YEN	Spot	102,68	102,93	102,14	102,73	102,31	-0,4200
	EUR/USD	Spot	1,3682	1,3674	1,3665	1,3547	1,3547	u,c,
	BRL/YEN	Spot	42,38	42,43	41,91	42,64	42,42	-0,2200
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,66	1,64	1,71	1,60	1,52	-0,0780
		1Year(p.a.)	2,04	2,04	2,10	2,00	1,96	-0,0410
	Real Interest	6MTH(p.a.)	10,92	10,93	11,03	11,18	11,21	+0,0285
		1Year(p.a.)	11,26	11,28	11,49	11,69	11,73	+0,0365
Stock	Bovespa		47.701	47.841	47.557	47.244	47.639	+394,73
Bond	CDS Brazil 5y		210,99	210,99	200,00	208,00	206,66	-1,3350
	Global 40		113,750	113,825	113,825	113,825	113,650	-0,1750

\* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。



## 2. 主要経済指標

## 3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	
基礎的財政収支	11.7B	10.4B	29.7B	なし
純債務対GDP比	34.0%	33.8%	33.9%	

## 4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場はUS\$1=R\$2.4020で寄り付いた。
- 週初はトルコ中央銀行が臨時会合を開催すると発表し利上げ観測が浮上したことが好感され、同国のリラが大きく上昇し、リアルも寄り付き後に買いが優勢となり、直ぐさま週間高値となるUS\$1=R\$2.3910を付けた。しかし大口の資金流出の噂が聞かれたほか、今週の米FOMCで緩和縮小を決定するとの観測を背景にドル買いが強まるとリアルは2.42台後半まで下落した。
- 翌28日にはインド中銀が予想外の利上げを実施したほか、中国工商銀行はデフォルトが懸念されていた信託商品について投資家が元本を回収できる案を示したことが好感され、リスク資産の買いが見られた。リアルも2.41台まで買い戻されるも、大口の資金流出の噂が聞かれると他のエマージング通貨の動きに反して反落した。
- 週央にかけてはトルコ中央銀行の緊急利上げで同国通貨リラが対ドルで2008年以来の大幅上昇となり、リスク資産が一時的に買われるも、緊急利上げが新興市場通貨を下支えする効果は長続きしないとの見方が強まった。更に、米FOMCを抑えて米金融緩和が更に縮小するとの見方が強まった結果、ドル買いに拍車がかかりリアルは週間安値となるUS\$1=R\$2.4510を付けた。
- 翌30日には大口の資金流入の噂が聞かれたほか、他のエマージング通貨が対ドルで上昇、リアルもポジション調整と思しき買いが見られると2.40台後半まで買い戻された。
- 週末にかけては大口の資金流出の噂からリアルは2.4350まで下落するも、流出が終わると反発、結局US\$1=R\$2.4170で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したもので、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

## Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
2/3	FGV CPI IPC-S	jan/31	0.98%	0.93%
2/3	製造業購買担当者指数	Jan	--	50.5
2/3	貿易収支(月次)	Jan	-\$4550M	\$2654M
2/3	総輸出	Jan	\$16456M	\$20846M
2/3	総輸入	Jan	\$20650M	\$18192M
2/3	貿易収支(週次)	Feb 2	--	-\$1602M
2/3	自動車販売台数(ブラジル自動車販売)	Jan	--	353863
2/4	FIPE消費者物価指数(月次)	Jan	0.91%	0.65%
2/4	鉱工業生産(前月比)	Dec	-1.5%	-0.2%
2/4	鉱工業生産(前年比)	Dec	0.0%	0.4%
2/4	CNI設備稼働率(季調済)	Dec	--	82.0%
2/5	PMIサービス業	Jan	--	51.7
2/5	商品価格指数(前年比)	Jan	--	3.12%
2/5	商品価格指数(前月比)	Jan	--	2.49%
2/6	自動車販売台数(ブラジル自動車工業)	Jan	--	353843
2/6	自動車生産台数(ブラジル自動車工業)	Jan	--	235858
2/6	自動車輸出(ブラジル自動車工業会)	Jan	--	40267
2/6	Serasa Retail Activity			
2/7	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	Jan	0.45%	0.69%
2/7	IBGEインフレ率IPCA(前月比)	Jan	0.63%	0.92%
2/7	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	Jan	5.67%	5.91%

## 6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.40-2.45

今週は市場を大きく動かした要因は二つ考えられる。先ずは米 FOMC を控えてドル買いの動きが見られた。米 FOMC では懸念されていた金融緩和縮小のペースは大半のエコノミストの予想通り、債券購入額を 100 億ドル縮小することを 2 会合連続で決定された。その結果市場ではドル買い圧力には繋がらず、逆にポジション調整の動きからドルが売られる展開となった。第二に厳しい経済、財政情勢と外貨準備高の減少を背景に先週のアルゼンチン・ペソの急落を震源としたエマージング通貨の売りが注目された。今週は特にトルコの通貨が急落、新興国市場からの資金逃避が加速し、投資家は積極的にリスクを取る姿勢を修正した。その影響からリアルも昨年 8 月以来となる 2.4500 を下抜け下落した。新興国各国は自国通貨の一段安阻として緊急利上げなどを発表した。市場では未だにリスク回避の動きが続いており、来週以降の動きが注目される。来週は国内ではインフレ指数、米国では雇用統計が注目され、リアル相場のボラティリティーは引き続き高い展開となるだろう。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものです。その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A Treasury Department